

はなさき支援学校 コーポレーションタイム

1 コーポレーションタイムとは

はなさき支援学校が開校するに当たり、

(1) 小学部、中学部、高等部が連携した特色ある教育課程が作れないか。

(2) 児童生徒、保護者、地域の願いを踏まえた2つの身につけたい力（「生活する力」「人(社会)と関わろうとする力」）の育成を反映できる授業ができないか。

という2つの願いから校内研修を重ねて作り上げてきた小中高等部の縦割りの授業です。

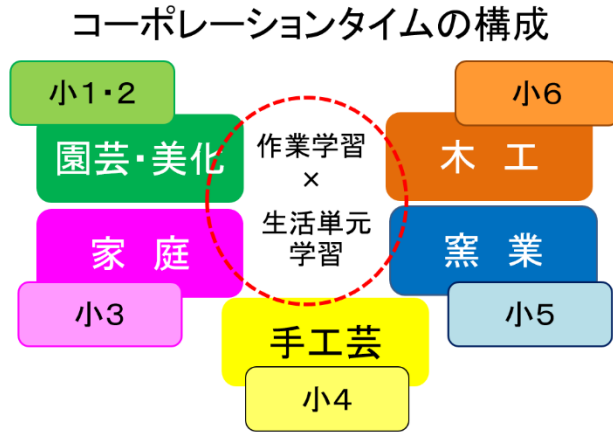
コーポレーション (Corporation) には「多くの組織が合併してできた団体」という意味があり、「コーポレーションタイム」には小学部・中学部・高等部の児童生徒と一緒に協働学習(生活単元学習、作業学習)を行う中で、有機的に関わる時間や場所、学習内容、その積み重ねを通して「生活する力」「人(社会)に関わる力」を高めてほしいという願いが込められています。

| | | 【コーポレーションタイムで身につけたい力】の指標 | | |
|-------|--------------------|---|---|--|
| | | H30.10 最新版 | | |
| 領域 | | 小学部 社会参加を促す興味・関心の拡大期 | 中学部 将来の就労をイメージ(夢)形成期 | 高等部 自ら課題解決に向かう実践力の育成期 |
| 生活する力 | 生-1 身辺自立 | 日常生活に必要な習慣作り ●基本的な生活習慣を身につけることができる。 (着替え、清潔など) | 社会生活に必要な習慣形成 ●社会を認識した生活習慣を身につけることができる。 (身だしなみ 作業服、エプロンなど) | 職業生活に必要な習慣形成 ●TFロに合わせた行動を身につけることができる。 (TFロとは時と場所、場面に応じた行動・服装等の使い分けができるなど) |
| | 生-2 作業への意欲・関心 | 意欲的な活動への取り組み ●自分から意欲をもって活動できる。 | 様々な活動への自発的な取り組み ●自分の好きな活動をもつことで自発的に取り組むことができる。 (様々な場面で充実感や達成感を味わわせることで学習意欲へとつなげ自発的な態度を育みたい) | 就労を認識した主体的、実践的な取り組み ●実践的な取り組みの中で、働くことを認識しながら、積極的に行動することができる。 |
| | 生-3 自己選択、判断する能力 | 自分の好きな活動の選択 ●自分で好きな活動を選択することができる。 | 自己の個性や興味・関心に基づいてよりよい選択 ●自己の興味・関心に基づいて経験や学びを重ねることで主体的に選択することができる。 | 状況に応じた選択や判断 ●様々な状況に応じて目標達成、課題解決に向けた選択や判断ができる。 |
| | 生-4 目標設定・振り返り | 活動の見直しと振り返り ●活動の様子を写真・絵カードを用いて見直しをすることが出来る。 ●学習活動終了時に「楽しかったこと」「楽しかったこと」の振り返りが出来る。 | 具体的な目標設定と振り返りを次に活かそうとする態度 ●自分の目標を設定することができる。(振り返りシートを活用) ●活動を振り返り、次に活かそうとすることができる。 | 活動の目標設定、自己評価、課題解決 ●活動内容をふまえて、自分で目標を設定することができる。 ●自己評価によって改善点を見つけることができる。 ●振り返りによって、課題解決のための目標を再設定することができる。(振り返りシートを活用) |

| | | 【コーポレーションタイムで身につけたい力】の指標 | | |
|----------------|------------------|---|--|--|
| | | H30.10 最新版 | | |
| 領域 | | 小学部 社会参加を促す興味・関心の拡大期 | 中学部 将来の就労をイメージ(夢)形成期 | 高等部 自ら課題解決に向かう実践力の育成期 |
| 人(社会)と関わろうとする力 | 人-1 コミュニケーション | 日常生活に必要となる挨拶や声かけの表現 ●自分なりの表現で挨拶ができる。 ●先輩や先輩など、身近な人とのコミュニケーションをとることができる。 | 社会生活に必要な意思の表現・言葉遣い ●相手や場の状況を踏まえた挨拶、言葉遣いができる。 | 相手や状況に応じた適切なやりとり ●TFロに合わせた挨拶や言葉遣い、会話が出来る。 ●来校者や学校以外の社会人と適切なやりとりができる。 |
| | 人-2 役割意識の形成 | 自分がやるべき活動の理解 ●自分の行う活動が理解でき、自分の役割を果たそうとすることができる。 ●最後まで活動に取り組むことができる。 | 自他の役割の理解と協力 ●困った時には他者から教えてもらったり、他者が困っている時には助けたりしながら、協力して役割を果たすことができる。 | 責任ある役割遂行 ●自分の役割を理解し、責任をもって取り組むことができる。 ●所属する集団の中で、他者へ働きかけながら役割を果たすことができる。(働き・連絡・相談、教え合い等) |
| | 人-3 自己・他者理解 | 自分の良さへの気づき、仲間や先輩への関心 ●自分の得意なことなどがわかる。 ●身近な先輩や他者に関心を示し、関わる事が出来る。 | 肯定的な自己理解、相手の気持ちや考え、立場の理解 ●生徒が達成感を味わい、自らを肯定的に理解する経験や学びを重ね、自己理解を深めることができる。 ●個性や先輩、後輩などの気持ちや関わり方を考えることができる。 | 達成感に基づく自己有用感、他者の考えや個性の尊重 ●達成感や成功感があるような体験の積み重ねを通して、肯定的に自分を認めることができる。 ●相手の気持ちや立場を理解し、思いやりをもちあわせることができる。 |
| | 人-4 集団参加する態度 | 5年級集団への参加・活動 ●5年級集団の中で一緒に活動する楽しさを味わうことができる。 | 集団に合わせた活動 ●自分や仲間の得意内容の得意さを発揮し、集団で取り組む満足感を味わうことができる。 ●集団として目的を共有し、協力しながら活動に取り組むことができる。 | 地域(社会)参加・貢献を体験した活動 ●協力、貢献を体験するにあたり、班や係、集団(チーム)の一員として自ら積極的に参加することができる。 ●学んだことを活かして、地域(社会)に役割を担った取り組みができる。 |

2 コーポレーションタイムの構成

コーポレーションタイムは、作業学習の5つの班に小・中・高等部の児童生徒が所属し、中学部と高等部は週に1回の協働学習、小・中・高等部は年間10回程度の計画を立てて協働学習に取り組んでいます。



教育課程 (生活単元学習・作業学習)

小: 異年齢の児童生徒との協働学習の中で、身近な仕事(作業)に興味・関心を持ち、かかわりながら活動ができる。

中: 異年齢の児童生徒との協働学習の中で、人とかかわろうとする力を育み、社会参加していく態度を養う。

高: 異年齢の児童生徒との協働学習の中で、人と関わろうとする力を高め、社会参加・貢献する態度を養う。

3 コーポレーションタイムの様子

最初は、「知らない人がいて不安」「小さい子が苦手」「教えるのが難しい」と不安を口にする児童生徒もいますが、活動を続けていくうちに

- ① 異年齢集団で色々な人と場の共有
- ② 役割意識・意欲、色々な経験や体験
- ③ コミュニケーションの学びなど

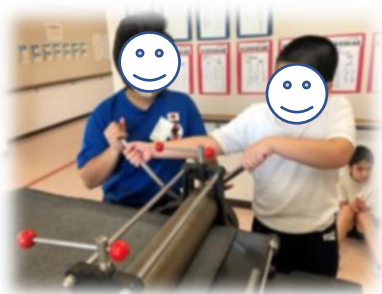
を積み重ねていくことにより「教えることができ嬉しかった」「先生や先輩に褒められて嬉しい」「またやってみたい」と前向きな感想も出てきて関わりの中での成長を感じる場面も増えてきます。



園芸美化班



家庭班



手工芸班



窯業班



木工班